

新しいことに挑戦 ～コロナ禍でもできる防災～

津福校区は、令和2年10月、災害時に避難支援が必要な人たちの避難方法を考えるため、地図を使った訓練(図上訓練)を行いました。

「コロナ禍でもできることを」と、3密にならないように部屋をわけ、リモートで情報を共有する。校区にとっても初めての試みとなりました。

開催にあたっては、インターネット環境を整えるため、コミュニティセンターにWi-Fi(ワイファイ)を完備。市民活動サポートセンターみんくるの協力のもと、勉強会も行いました。

「日頃お会いすることがないから、どんな支援を必要としているかわからない」「自分たち以外に協力者がいない」といった声もあり、日頃から顔見知りになっておくことや、地域で支え合いを広めていくことの重要性を感じる訓練となりました。

また、今後はリモートの活用等、新しい時代に合わせたやり方で、「名簿の登録者が自宅で訓練に参加できるようにしていきたい」など前向きな声も聞かれました。



避難ルートや避難方法を考えているところ



部屋は別々でもリモートで発表内容を共有

離れていても心はひとつ

合川校区市ノ上自治会のふれあいの会は「おうちサロン」を開催しました。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、各地域で行われているいきいきサロンも自粛となりましたが、「楽しみにされている人たちのために何かできないか」と考えた活動です。

脳トレなどのプリントを事前に配布し、参加者が同じ時間に同じことをそれぞれの自宅で楽しむ。同じ空間にいらなくても、心はつながっていると感じてもらえる工夫です。

事前にご自宅を訪問し、話をする中で、変わったことがないかの確認もでき、参加者にも大変喜ばれています。不在の時でもメッセージを添えるなど、直接顔を合わせられなくてもつながり続ける活動が積極的に行われています。



◀活動している皆さん
(撮影時以外はマスク着用)



ひとりじゃないよ

ツインズクラブは、双子、三つ子を育てている保護者が集まり、多胎児育児特有の悩みを相談したり、育児サポート等を行っている団体です。代表の村井さんは、この4月から「コロナだからできること」を考え、保護者を対象にGoogleアンケートを行いました。コロナ禍での過ごし方を聞いたところ、様々な工夫が見えてきたそうです。その工夫をSNSで紹介。双子の写真を掲載したり、月齢・年齢別のオススメの過ごし方など、日々の生活を楽しむ工夫がされています。

自粛期間中は、人に会えず、孤独を感じる母親たちも多かったと言います。何気ないことに怒ってしまったり、手をあげそうになってしまうという保護者の話に寄り添い、受け止めることが、「ひとりじゃない」ということを伝えることにもつながっています。「コロナ禍で思ったことは、日頃からのつながりが大事だということ。困ったときに困ったと言える関係をつくっておく必要がある。」と話されました。

問合わせ

ツインズクラブ (代表:村井 麻木)
TEL 090・3417・0476
Instagram
twins_club.kurume



笑顔で迎えてくれる代表の村井さん

皆さんの工夫を聞かせてください

「くるめ福祉」では、今後もコロナ禍での活動などを紹介していきます。コロナに負けず、前向きに取り組んでいる団体や、あなた自身が生活の中でやっている工夫など、ぜひ私たちに教えてください。詳しくは、7ページの『「くるめ福祉」アンケート』をご覧ください。